盤・頭蓋・胸骨に多くみられた．骨X線写真と比較すれば，osteolytic な所見が多いが，所見のないものも数例みられた．その他治療との関係，follow-up scan で "cold" lesion の出現した症例などについて報告する．

8. 肺癌，前立腺癌，乳癌における Follow-up Bone Scintigraphy の検討

○藤村　憲治　　佛坂　博正
福井康太郎　　安永　忠正
片山　健志
（熊大・放）
別府　　進
（三井病院・放）

肺癌40例，前立腺癌16例，乳癌56例の再骨シンチについて検討を行なった．

初回骨シンチにて異常がみられ，骨転移の確診されたものの再シンチ所見は以下の通りであった．肺癌では 67% (14/21) に病巣の進行 (progression) がみられたが，前立腺癌では，病巣の改善 (regression) 92% (11/12) と高率であった．乳癌では，変化なし (no change) 32% (6/19), progression 36% (7/19), regression 32% (6/19) と同程度であった．

初回骨シンチで異常なしと判断した再シンチ症例では，肺癌16% (3/19)，乳癌24% (9/37) に新たに骨転移が出現した．

肺癌では，抗癌剤治療などを行なっても，再シンチで新病巣の出現頻度が高く，逆に前立腺癌では，ホルモン療法などにより，病巣の改善を示したものがほとんどであった．乳癌では，多彩な再シンチ所見を呈するものと考えられた．

9. 骨シンチグラム上，多発病巣を認めた結核の1症例

○中島　彰久
（長大・放部）
三宅　秀敏　　山下　勝義
林　　邦昭　　本保善一郎
（同・放）
木下　博史
（長崎市民病院・放）

近年，骨シンチグラフィーの普及は目覚ましく，特に悪性腫瘍における転移巣の早期発見や治療効果の判定に欠かせない存在となってきている．

また，悪性のみならず，種々の良性疾患においても RI の集積がみられ，一部には多発性病巣の描出も報告されている．

今回我々は，肺結核の治療中，骨の悪性腫瘍も疑われたため，^{99m}Tc-MDP による骨シンチグラフィーを行なったところ，多発性の全身骨への RI 集積が見られ，治療により改善が見られた肺，リンパ節及び骨結核の55歳女性の症例を経験し，現在までに，骨結核による報告がないので，ここに発表した．

座長のまとめ (7～9)

矢野　　潔

骨シンチは悪性腫瘍の骨転移の検索に有効な手段であるが，その陽性像の分析は容易ではないし，陰性像の場合でも骨腫瘍の事がある．従って骨シンチによる骨腫瘍の診断には多くの問題が残っている．熊大の佛坂等は cold lesion と転移性骨腫瘍をとり上げている．cold lesion と病型との関係は未定であるが，osteolytic な変化の81.2%に cold lesion を認めている．又，治療によって cold lesion が hot lesion に変化した事も例示し，cold lesion に関心を示している．熊大の藤村らは，肺癌，乳癌，前立腺癌についての骨シンチの follow up を行っている．ホルモン療法を行った後の前立腺癌では大部分が regression を示すが，他では no change も含めて多彩な変化を示し，follow up の

Presented by Medical*Online